



エネルギー・資源学会
東大エネルギーシステム
インテグレーション
社会連携研究部門

2050年のエネルギーと社会
そして前に進むために
2022年度第1回シンポジウム

パネルディスカッション(1)
2050年のエネルギー供給：
電力部門を中心に

2022年4月22日(金)

パネル資料

～統合コスト・系統モデルについて～



京都大学大学院 経済学研究科
再生可能エネルギー経済学講座
特任教授

安田 陽

+ 統合費用Ueckerdt原論文より引用



- That does not mean that optimal shares of VRE are low in particular when negative externalities like climate change and further benefits of VRE are internalized.
 - 【安田仮訳】 このことは**最適なVREシェアは低いことを意味するものではない**(特に気候変動などの負の外部性やVREの便益が内部化される場合)。
- However, achieving high shares of VRE might need considerable carbon prices as well as strong nuclear capacity restrictions or significant renewables support.
 - 【安田仮訳】 しかし、高いVREシェアを達成するためには、**相当の炭素価格**に加えて、**原発の容量を強く制限したり再エネを強力に支援**することが必要になることがある。



